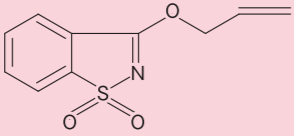
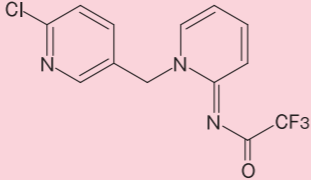


## 成分・性状・構造式

農薬名	オリゼメートリディア箱粒剤	
一般名	プロベナゾール	フルピリミン
化学名	3-アリルオキシ-1,2-ベンゾイソチアゾール-1,1-ジオキソド	N-[(E)-1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)ピリジン-2(1H)-イリデン]-2,2,2-トリフルオロアセトアミド
含有濃度	3.2%	2.0%
構造式		

## 適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオビコヤガ イナゴ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植3日前 ～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田では 2回以内)	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内)
		高密度には種する場合は 1kg/10a 育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g					

### ⚠️ 効果・薬害等の注意

- 育苗箱の苗の上から所定量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 薬剤が育苗箱から零れ落ちないように処理を行ってください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾初として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用してください。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけてください。
- 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意してください。
- 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意してください。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田での使用はさけてください。
- 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけてください。

- 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生じるので、所定の使用時期、使用方法を守ってください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

### ⚠️ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の担当を受けてください。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようし、施用した作物等との接触をさけてください。
- 夏期高温時の使用をさけてください。

### 上手な使い方

#### ① 箱当たり50gを均一に

育苗箱の苗の上から均一になるように散布してください。



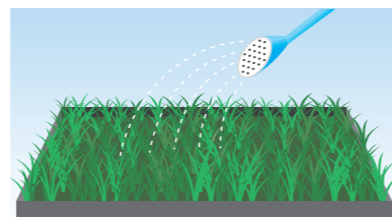
#### ② 軽く払って

薬剤散布後、軽く苗の上半分を払い、葉にひっかかっている薬剤を培土の上に落としてください。



#### ③ 十分に水やり

最後に上から十分に灌水し、薬剤を培土の上に落ち着かせてください。



**1箱当り50gを均一に散布してください。**

●使用前にラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空袋・空容器は圃場や用水路などに放置せず、適切に処理してください。●防除日誌をつけましょう。

お問い合わせ/ご注文は

殺虫剤分類 4F  
殺菌剤分類 P2

農林水産省登録  
第24403号

## 水稻育苗箱専用殺虫殺菌剤

# オリゼメート<sup>®</sup>

# リディア<sup>®</sup>

## 箱粒剤

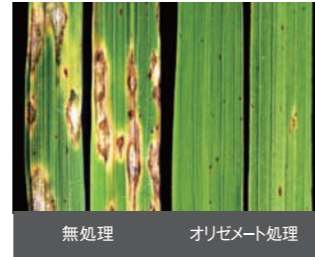
技術資料



- 1 オリゼメートがいもち病に対して高い防除効果を発揮!!**  
殺菌成分のプロベナゾールは植物体の防御機構を活性化し、いもち病に対して高い防除効果を示します。
- 2 リディアが、既存剤に抵抗性を持った害虫にも効果を発揮!!**  
殺虫成分のフルピリミンは昆虫の神経伝達系に作用し、麻痺を引き起こして殺虫効果を発揮します。
- 3 ミツバチを始めとする、有用昆虫に影響が小さい!!**  
ミツバチのほか、ウツキコモリグモ、ヤゴ等への影響はほとんどありません。

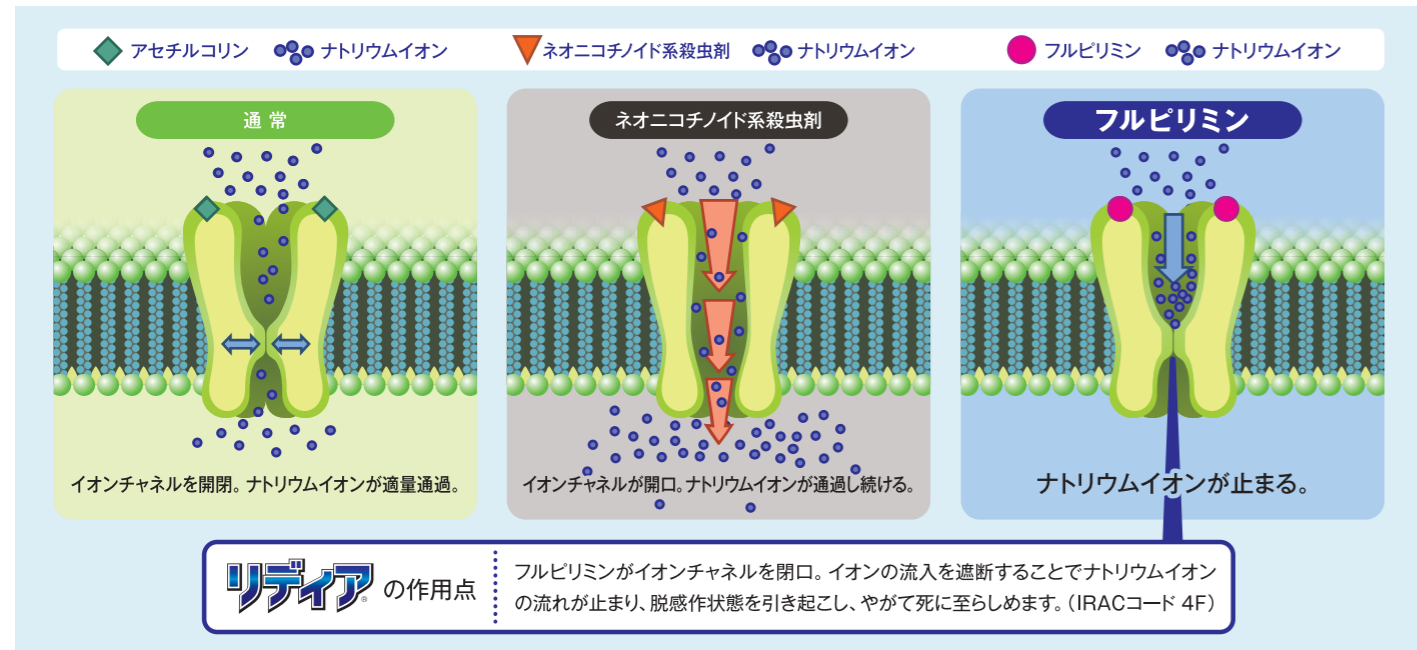
## ■オリゼメートの作用機作

プロベナゾールは直接病原菌に作用して活性を示すのではなく、植物体に病害抵抗性を誘導することにより高い防除効果を発揮します。プロベナゾールを吸収したイネでは、いもち病菌の感染を受けると、殺菌作用があるといわれているスーパーオキシドが放出されたり、抗菌物質が産出されたりします。また、細胞壁の物理的強度を高めるリグニンが形成され、菌糸の蔓延を防ぎます。このような一連の現象はプロベナゾールが、いもち病菌侵入のシグナルを増幅させ抵抗性を発現させるためと考えられています。プロベナゾールは病原菌への直接殺菌力を持たないため、薬剤耐性菌の出現する可能性が極めて低いと考えられ、耐性菌マネジメントの観点からも有効な薬剤と考えられます。



## ■リディアの作用機作

フルピリミンは、ニコチン性アセチルコリン受容体に結合し、アンタゴニスト(遮断薬)として作用します。イオンチャネルを閉口させイオンの流入を遮断することで、脱感作状態を引き起こし、やがて死に至らしめます。ニコチン性アセチルコリン受容体に作用するネオニコチノイドなどの殺虫剤はアゴニスト(作動薬)として作用し、イオンチャネルを開口させることで、昆虫の異常興奮を引き起こすため、フルピリミンとは作用機構が異なります。



## ■フルピリミンの有用昆虫に対する影響

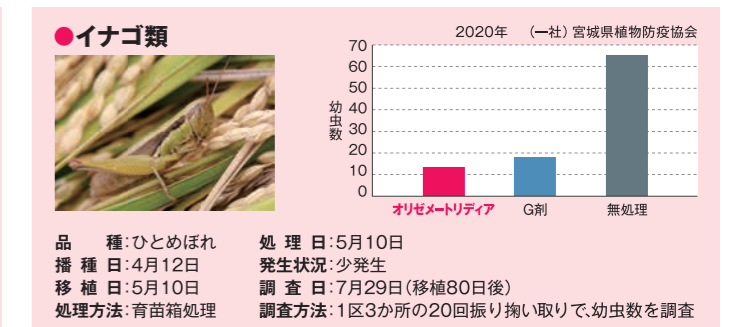
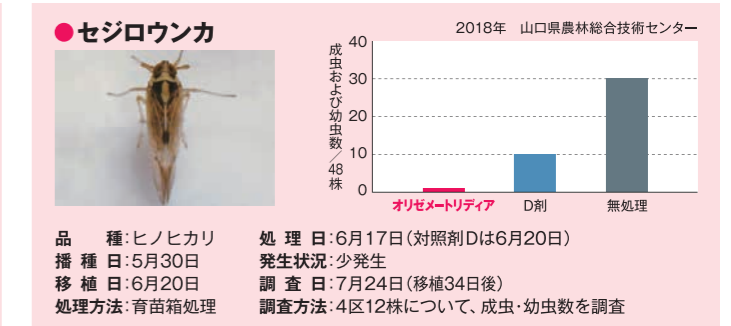
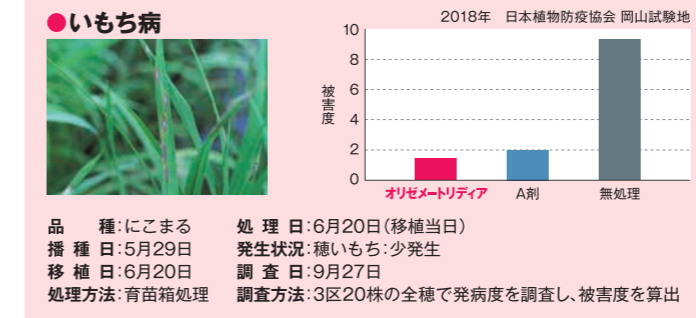
フルピリミンは、セイヨウミツバチのほかマルハナバチやマメコバチなどのハチ類に対して、影響がほとんどありません。田んぼの近くでハチが放飼されているような環境でも、安心して使用いただけます。またクモ、ヤゴなど多くの有用昆虫に対して、影響がほとんどないことが確認されています。

虫種	試験方法	結果
セイヨウミツバチ	成虫/急性/経口	96hr >53.6μg/bee (LD50)
	成虫/急性/局所	96hr >100μg/bee (LD50)
	成虫/散布/リンゴ(花、葉)	100ppmで影響なし
	幼虫/急性/局所	72hr >20μg/μℓ (LD50)
マルハナバチ	成虫/急性/経口	72hr >100μg/bee (LD50)
マメコバチ	成虫/散布/イチゴ(花、葉)	100ppmで影響なし



供試昆虫名	生育ステージ	影響の大きさ(○は影響なしを示す)	試験方法	結果
ウツキコモリグモ	幼体	○	虫体浸漬	>100mg/ℓ (LD50)
アキアカネ	孵化幼虫(ヤゴ)	○	田面水浸漬	箱あたり50g (20枚/10a)で影響なし
クモンクサカゲロウ	幼虫	○	虫体浸漬	>100mg/ℓ (LC50)
クメリスカブリダニ	成体	○	食葉浸漬	>100mg/ℓ (LD50)
シヨクガタマバエ	成虫	○	ドライフィルム	10>LD50>1mg/mℓ
タイリクヒメハナカメムシ	成虫	○	虫体浸漬	100>LC50>10mg/mℓ
ナミドントウ	成虫	○	虫体浸漬	10>LD50>1mg/mℓ

## ■試験成績



**オリゼメートリディアは各病害虫に対して高い効果を示しました。**